



地方開發と道路政策に就て

小山 谷 藏

およそ一國の道路の整備して居るといふ事は其の國家の興隆を象徴するものであると謂ふことが出来る。之を古今の歴史に徴するならば、太古の有名なるローマン道路と稱せられるものは、彼の羅馬帝國の隆盛時代に築造せられたるものである。又巴里のシャンゼリゼーの大道路と之に附屬する有名なる凱旋門は佛蘭西帝國の黄金時代、ナポレオン一世の偉業を物語る好個の記念物となつ

て居る。近くは獨逸に於ける道路網の完備を見たのは彼のカイザーの全盛時代であつたことのみ、又最近米國の繁榮が其の道路改良政策の實に目覺しき發達を齎しつゝある等、まことに道路の整備改良は國力の隆昌と併行するものと觀られるのである。翻つて東洋方面を視れば、彼の秦の始皇帝の萬里の長城の如き、隋の煬帝の大土木事業の如き、多くの勞働者を驅つて産を成さしめ、後世に偉業を遺したる事蹟に顧みるときは、道路の改良は國家經綸の大事業であると謂なければならぬ。

輓近交通機關の發達は實に顯著なるものがある。而して我國に於ては、陸上交通機關として今尙ほ専ら鐵道に之を求める傾向があるが、最近に於ける歐米の交通狀況を見れば、鐵道よりは寧ろ自動車に重きを置く時代になつて居ると思ふ。此の趨勢は漸次我國にも波及し來るであらう。即ち完全なる道路の設備があるならば、自動車を以てする方が便利であり、殊に短距離の交通機關としての自動車は遙かに優秀なる位地を占むるものである。而して其の道路の建設に要する經費は、鐵道建設のそれに比して遙かに經濟的なのであるから、自動車の發達と相俟つて道路の改良といふことは方に時代の急務であると言ふべきである。

政府に於ても茲に著眼する所があり、夙に全國的に道路改良の計畫が樹立せられて、今や著々として其の實行の緒に就きつゝあることは、洵に時代の趨勢に順應する所の喫緊の施設であると思ふ。

自動車と道路の關係に就いて想ひ起すことは大正四年自分が文部省に居つた時のことであるが大正天皇の御即位の大禮が京都に於いて行はせられた。當時外國から來られる國賓を近畿の名勝古跡に案内するのに自動車を以てすることになつたが、京都、大阪を通じて六十八臺しか自動車が無い。而も其の全部を借上げるといふ譯にもいかず、中に十餘臺は使用に堪へないものもあるといふので、官内當局も困惑の末、東京から數十臺を借上げて京都に送り、漸く其の用を辨じたといふやうな次第であつた。

其の當時自分は内務當局に對して、一體日本全國に何臺の自動車があるかと聞いて見ると、警保局長は、千二百二十三十臺であらうと言つて居つた。所が此の頃から我國の自動車の利用は急速に發展して來て、一年を経たる大正六年には二千六百臺即ち倍數以上に達するといふ勢であつた。そこで自分は、今後倍々自動車が利用せられるに従つて、どうしても道路の改良完備を圖らなければならぬといふ事に考へ及んで、大正七年に三井の早川千吉郎君や本田親清君等と相謀つて、東洋道路株式會社(資本金二千萬圓)といふものを起したのである。所が此の事業は當時に在つては未だ時機尙早たるを免れなかつた譯で、殆んど道路に關する工事は公私ともに算ふべきものが無いといふ状態であつた爲に、遂に會社は解散の餘儀なきに立至つた。爾來自動車の發達は殆んど隔世の觀があり、昨今全國各地に道路改良の工事が著々として施行せられつゝある状態を見て自分は轉た今昔の感に堪へないのである。

我國の交通政策としては多年鐵道に主力を注いで來たのであるが、今や全國の主要なる幹線は略々鐵道網の完成を見たのであるから、今後は道路の完備に重點を置くことを原則とすべきであると信ずるのである。

今その實例を擧げて見れば、自分の郷里である和歌山縣熊野地方の如きは正に其の一例ではないかと考へる。彼の交通不便なる熊野地方にも、大正九年以來之を貫通する紀勢鐵道が起工せられて居るのであるが、洵に其の進行は牛歩遅々たる状態であつて、前途頗る遼遠の觀がある。宜しく之を或る地點に於いて打切つて、殘餘の區間は自動車を以て連絡し、更に史蹟名勝の豊富なる山林地帯を貫通する自動車道路を建設するならば、地方の開發の上から見ても又大なる國家的見地から見ても遙かに有益であると信ずるのである。

抑々和歌山、三重、奈良三縣に互る地域は、神武天皇東征以來の史蹟名勝が到る所に存在するので、熊野神社を始め、高野山、道成寺、吉野等は、汎く世人の知る所である。加ふるに那智瀧、瀨八丁、熊野川一帯の風光、又昨年 天皇陛下の行幸あらせられた潮の岬の如きは、眞に天下の絶景である。當時長くも陛下には、斯かる風景がせめて東京近郊に在つたならば……と仰せられたと漏れ承るが、此の地に適當なる交通機關が開通したならば、此の史蹟風光は實に天下に誇るに足るものである。そのみならず、到る所に温泉が湧出して居り、氣候も冬は暖かに夏は涼風を受けて、洵に絶好の勝地であるが、從來

の交通機關としては唯一の極めて險惡なる海路に依るの外、道路といふべき道路もなく、鐵道、電車の如き設備は勿論無い。其の爲に殆んど世人から閑却せられて居つたのであるが、近年は其の眞價が稍々都會人士の認むる所となつて、不便なる地にも拘らず相當多數の遊覽客を見るやうになつたのである。

○
そこで地方の開發に道路が如何に重要な關係を有するかといふことに就て、亞米利加の實例を見るならば、彼のコロラド地方は、コロンビヤリバー・ハイウェイの開通に依つて交通は頻繁になり、物の輸送が圓滿になり、延いて生活費の低廉、生産品の販路擴張となつて、大に地方開發に寄與しつゝあることは、世人の能く知る所である。然るに翻つて和歌山縣内に於ける交通施設を顧みるならば、前述の如き鐵道工事は進行しつゝあるけれども、國道と稱すべきものは殆んど之を認め得ないのである。奈良縣に於いても亦同様の状態であると聞くのであるが、自分の見る所を以てすれば、目下建設中の紀勢鐵道と相連絡して、一方は伊勢神宮より和歌山市を連絡するところの國道を通じ、又熊野川を遡つて彼の沿岸繪の如き風光を賞しつゝ、有名なる吉野の山林地帯を通過して、奈良に至る自動車を通じ得る國道を建設したならば、前述の歴史的な勝地熊野地方に散在する天下の絶景や豊富なる溫泉地帯を連絡することゝなつて、是等の地方開發の上に多大の貢獻を與へると共に、又國家的見地から觀ても眞に有意義の施設であると信するのである。自分は嘗て議會に熊野地方を中心とした

國立公園建設の建議案を提出したことがあるが、それは全く此の趣旨に外ならないのである。彼の有名なる亞米利加のグランドケニオンや、アデロンダックの湖水地方等に於ける自動車道路の状態を見ても、自分は切に此の施設の必要を提唱する次第である。

固よりは是等の地方は我國の風光とは自ら趣きを異にして居ることは謂ふまでもない、其の規模の雄大なる點、其の他彼には彼の特色があるが、我國の風光にも亦我國の特色がある。之に適當なる交通機關殊に自動車道路の完備だにあるならば、眞に世界に誇る遊覽地たることを疑はないのである。

○
 國道の建設には現にそれ〴〵法令等の規定に於いて種々の制限もあることであるから、果して是等の地方に吾々の希望するが如き國道の施設が行はれるか否やは不明であるが、若し單に法令の規定が之を許さぬとするならば、宜しく規定を改正して、道路政策に依る地方の開発に努力しなければならぬ。それは冒頭に述べたる如く、今や自動車の發達及び其の利用に依つて従來鐵道軌道に依つてのみ地方の開発は期し得らるゝと考へられた交通政策は、一轉機を劃すべき時代に到達して居ると信ずるからである。(完)